

経済・金融 フラッシュ

【8月米個人所得・消費支出】

消費支出(前月比)は+0.3%と市場予想に一致も、18年2月(同▲0.1%)以来の低調な伸び

経済研究部 主任研究員 窪谷 浩

TEL:03-3512-1824 E-mail: kubotani@nli-research.co.jp

1. 結果の概要: 名目個人消費は市場予想に一致も、個人所得は予想を下回る

9月28日、米商務省の経済分析局(BEA)は8月の個人所得・消費支出統計を公表した。個人所得(名目値)は前月比+0.3%(前月値:+0.3%)となり前月に一致したものの、市場予想(Bloomberg集計の中央値、以下同様)の+0.4%を下回った。個人消費支出(名目値)は前月比+0.3%(前月値:+0.4%)と、こちらは前月を下回ったものの、市場予想(+0.3%)に一致した(図表1)。価格変動の影響を除いた実質個人消費支出は前月比+0.2%(前月改定値:+0.3%)と、+0.2%から上方修正された前月を下回ったものの、市場予想(+0.2%)には一致した(図表5)。貯蓄率¹は6.6%(前月:6.6%)と前月から横這いとなった。

価格指数は、総合指数が前月比+0.1%(前月:+0.1%)と前月、市場予想(+0.1%)に一致した。また、変動の大きい食料品・エネルギーを除いたコア指数は、前月比横這い(前月値:+0.2%)と、前月および市場予想(+0.1%)を下回った(図表6)。前年同月比では、総合指数が+2.2%(前月値:+2.3%)と前月から低下、市場予想(+2.2%)には一致した。コア指数は+2.0%(前月値:+2.0%)とこちらは前月、市場予想(+2.0%)に一致した(図表7)。

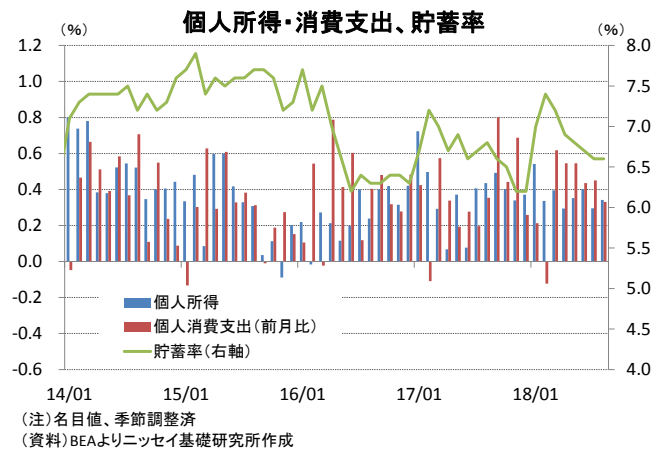
2. 結果の評価: 消費は18年2月以来、6ヵ月ぶりの伸びに鈍化

名目個人消費(前月比)は、マイナスとなった18年2月以来、6ヵ月ぶりの伸びに鈍化した(図表1)。また、8月は消費の伸びが所得の伸びと一致した結果、貯蓄率は前月から横這いとなった。

米中貿易戦争に伴い、中国からの輸入品に追加関税が賦課されるため、今後輸入品価格の上昇による消費への影響が懸念される。

しかしながら、消費を取り巻く環境は、労働市場の回復持続で賃金上昇が加速しているほか、堅調な株価などを背景に消費者センチメン

(図表1)



¹ 可処分所得に対する貯蓄(可処分所得-個人支出)の比率。

トが高い水準を維持していることから、引き続き消費に追い風となっている。このため、今後も消費の底堅い状況が続こう。

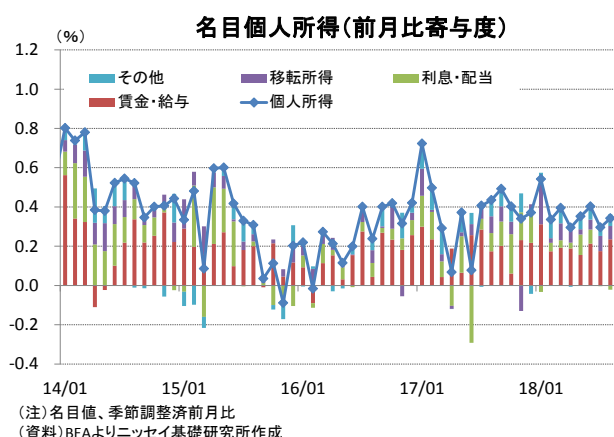
一方、物価は総合指数（前年同月比）が、小幅ながら4ヵ月ぶりの低下となった。先月発表された8月の消費者物価も同様に低下していたことから、前年比でみた8月の物価は伸びが鈍化した可能性が高い。もっとも、物価の基調を示すコア指数は前月に続きFRBが物価目標としている2%の水準に一致しているほか、時間当たり賃金の伸びが加速していることなどを考慮すると、物価の伸び鈍化は一時的だろう。

3. 所得動向:賃金・給与が18年1月以来の高い伸び

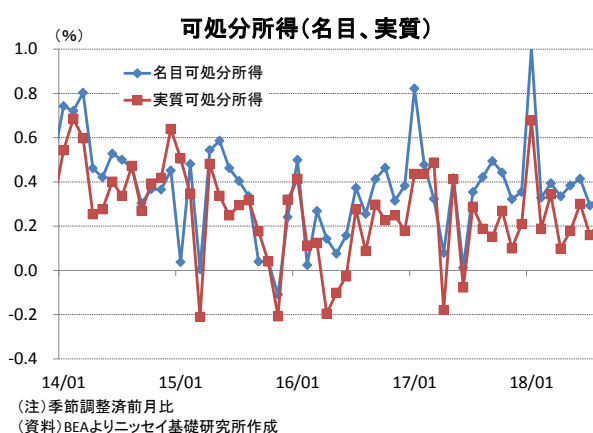
個人所得の内訳をみると賃金・給与が前月比+0.5%（前月：+0.4%）と18年1月（同+0.6%）以来の高い伸びとなった（図表2）。一方、利息・配当収入は▲0.1%（前月：▲0.0%）と2ヵ月連続で減少したほか、移転所得は+0.4%（前月：+0.5%）と、高い伸びを維持したものの前月から鈍化した。

個人所得から税負担などを除いた可処分所得（前月比）は+0.3%（前月：+0.3%）と、前月並みの伸びとなった（図表3）。価格変動の影響を除いた実質ベースも前月比+0.2%（前月：+0.2%）と、こちらも前月並みの伸びとなった。

（図表2）



（図表3）



4. 消費動向:自動車関連消費の減少に伴い耐久財消費が減少

名目個人消費（前月比）は、サービス消費が+0.4%（前月：+0.4%）と前月並みの伸びを維持した一方、財消費が+0.3%（前月：+0.5%）と前月から伸びが鈍化した（図表4）。財消費では、非耐久財が+0.5%（前月：+0.5%）と前月並みを維持したものの、耐久財が▲0.1%（前月：+0.5%）と減少に転じたことが大きい。

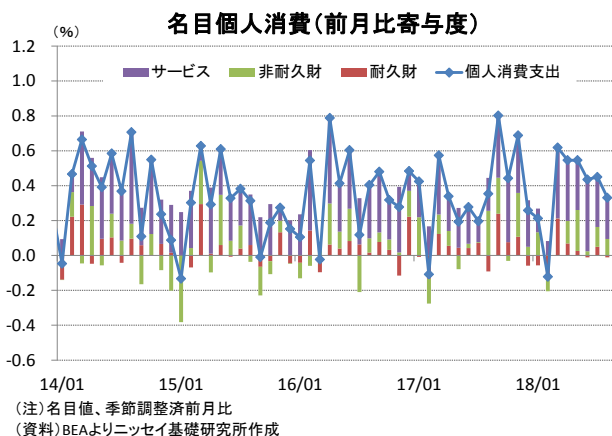
耐久財では、娯楽財・スポーツカーが▲0.3%（前月：+0.4%）、自動車・自動車部品も▲0.2%（前月：+0.8%）と前月から減少に転じた。

非耐久財では、衣料・靴が▲0.9%（前月：+1.9%）と前月から減少したものの、ガソリン・エネルギーが+3.0%（前月：▲1.8%）と前月から増加に転じ非耐久財消費を押し上げた。

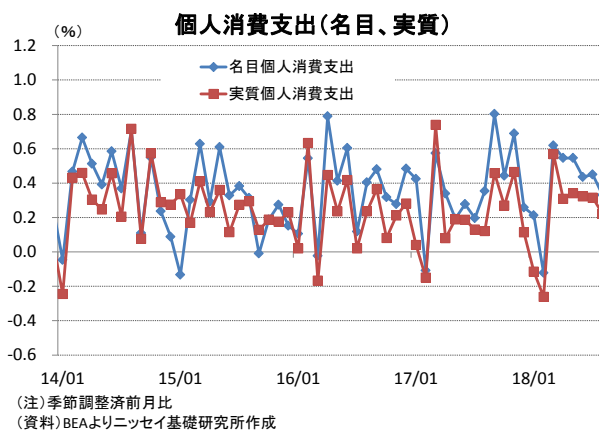
一方、サービス消費では、外食・宿泊が横這い（前月：+1.4%）、医療サービスが+0.3%（前月：

+0.4%)と、前月から伸びが鈍化した一方、娯楽が+0.2%（前月：▲0.5%）と前月から増加に転じたほか、金融・保険が+0.4%（前月：+0.1%）と前月から伸びが加速した。また、住宅・公共料金は+0.3%（前月：+0.3%）と前月並みの伸びとなった。

(図表 4)



(図表 5)

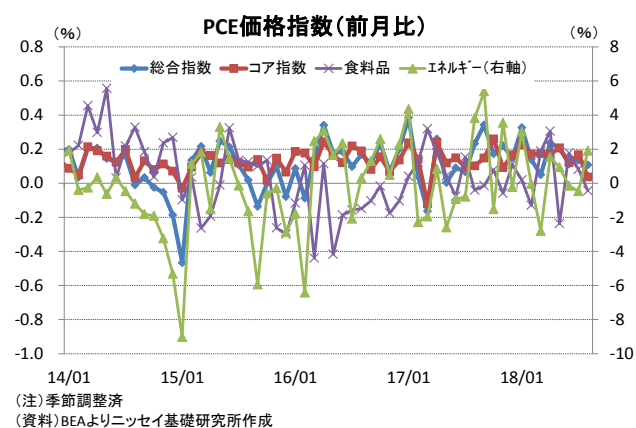


5. 価格指数:前年同月比でエネルギー価格は4ヵ月連続2桁の上昇

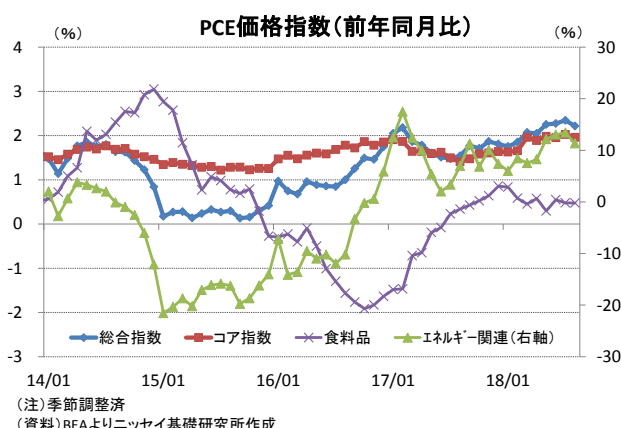
価格指数(前月比)の内訳をみると、エネルギー価格指数が+1.5%(前月:▲0.5%)と3ヵ月ぶりにプラスに転じた(図表6)。一方、食料品価格指数は▲横這い(前月:+0.1%)と、こちらは3ヵ月ぶりに小幅ながらマイナスとなった。

前年同月比では、エネルギー価格指数が+11.3%(前月:+13.4%)と4ヵ月連続で2桁の伸びとなった(図表7)。エネルギー価格は16年11月以降、物価を押し上げる状況が持続している。最後に食料品価格指数は+0.5%(前月:+0.5%)と、こちらも前月なみの伸びを維持し、14ヵ月連続でプラスとなった。

(図表 6)



(図表 7)



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保證するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。